

ポスター②

検査値記載処方箋を有用に活用するための取り組み

人材開発部研修担当

○加藤 香里

長久保 久仁子

【背景】

現在院外処方せんに検査値を記載する病院が増えつつあるが、検査値が記載された処方箋応需歴のない店舗が多いのが現状である。

処方箋に検査値を記載する事で、保険薬局薬剤師が外来薬物療法の一翼を担う事が期待されているが、一方で、腎機能等検査値が記載されているにもかかわらず保険薬局でチェックされず腎機能に問題がある患者に漫然と同じ薬剤が処方されているケースが取りざたされている。

喫緊の課題として検査値を活用した薬学的管理能力を身に付ける必要があり、社内研修会を開催することとした。

【目的】

臨床検査値の読み方を学び、用量調節の必要や副作用の確認などのチェック機能を高める。

【方法】

① 研修会の開催

講師：日本ケミファ学術担当者

開催回数：2回シリーズ、各回3回開催、約90分

テーマ：A 腎機能検査について

B 肝機能検査、腫瘍マーカーについて

終了後、アンケート記入

② 各店舗から応需した検査値記載処方箋をFAXしてもらい、記載部分を研修終了後に回覧

【結果】

① ・参加人数

A 腎機能検査について：63名

B 肝機能検査、腫瘍マーカーについて：59名

・アンケート結果

1、「検査値が記載された処方箋を調剤または監査・服薬サポートしたことはありますか？」

ある32%、ない58%、見たことはある10%

2、「研修前と研修後で、検査値が記載された処方箋への意識が変わりましたか？」

変わった90%、変わらない8%

② 送付店舗数：6店

医療機関数：12医療機関

【考察】

検査値記載処方箋に携わっていないスタッフの割合は約60%、検査値記載処方箋を応需している薬局は6店舗と、応需している割合が少ないことが結果からわかった。

アンケートには「ただの腎機能の検査値ではなく、患者背景も考慮すべきことがわかった」「疑義照会で処方変更になっている割合が多いことに驚いた。それだけ、検査値から投与量の適性を判断する必要があると感じた」などの意見があり、目的である「チェック機能を高める」意識は、高まっていると考えられる。今後も引き続き、検査値に関する研修会を開催する予定である。

【補足】

検査値記載処方箋を回覧できなかった回もあるため、当日は検査値記載処方箋を掲示予定です。